

発行／平成26年12月19日
編集／四国の川を考える会

水紋

すいもん

土木遺産のさんぽみち
「野中兼山」ゆかりの水路

高知県香南市野市町にある「兼山の三叉」。名前の通り、江戸時代に土佐藩の奉行として新田開発に力を尽くした「野中兼山」の遺構であり、ここで水路は三つに分かれる。

台地であった野市周辺を開拓するために、物部川に上井堰を設け、川より高い場所に水を引いた。おかげで、豊かな水の流れが生まれ、周辺には田園地帯が広がる。今なお勢いよく流れれる水路の風景にその技術の高さを知ることができる。

兼山の残した土木遺産は計り知れず、その恩恵をあちこちで見ることができ。兼山は死後、民衆から春野明神として崇められ、兼山神社、野中神社の他、多くの石碑が今に残る。桜や紫陽花が植えられた水路周辺は、人々に愛される美しいウォーキングコース。時には、ゆく川の流れに兼山の偉業をしのびた



写真は、「四国みづべ八十八カ所」の一つ、高知県香南市の兼山の三叉

川の助成事業 実施状況

土器川生物公園 魚類調査及び清掃

三月十五日、丸龜市垂水町にある土器川生物公園に、土器川生物研究会会員他三十八人が集合し、生物調査と清掃を行いました。

年間2回の調査は十月と三月に実施していく、今日は2回目の調査です。早朝はまだ気温も低く、防寒着を着込んでの調査となりました。

生物調査は、土器川生物公園が開園した平成九年当初から継続していて、魚類をはじめとする水中生物と周辺の野生植物調査を行なっています。

土器川生物公園は、土器川特有の出水の水を利用して、水は池泉から滝壺へ、そして、せせらぎ水路からひょうたん池へと進みホタル水路を経て、再び土器川へと流れていきます。人工的に作られた水路は、現在では葦などが生い茂り自然の風貌を遂げていて、魚類や水中生物の格好の住処となっています。

魚類調査は、投網、玉網、地引網などを使用して公園内の九箇所で生息する魚類等を捕獲して、種類、数や大きさを記録に残します。調査終了後、参加者全員で公園

内の清掃を行い約六十キロの不法投機ごみを回収して、今日の活動を終えました。

生物調査により得られたデータは、土器川の生物を説明する上で貴重なもので、環境学習など多様な学習の場で使用しています。

また、管理者にも提供していて、土器川における河川愛護の啓発及び水環境管理の基礎的情報として活用しています。



四万十川水辺八十八カ所巡り

四万十川自然再生協議会が選定した「四十の水辺八十八カ所」を巡るバスツアーが、平成二十二年十二月十四日（土）「四国の川を考える会」の助成金を活用して開催されました。

3回目となる今回のツアーでは、四万十町と梼原町の「水辺」あわせて8箇所を巡りました。

「上岡沈下橋」では、四万十市西土佐にある「口屋内沈下橋」のモデルになつた橋との紹介がありました。また、かつて林業が盛んであった頃の森林軌道跡である

「下津井めがね橋」は橋桁の曲線がとても美しく、橋の上には石畳も残されており、レトロでノスタルジックな姿が参加者に大好評でした。「上岡沈下橋」はアーチ型の形状をしている橋で、この形にすることによって水の抵抗を受けないようにしてているとのことでしきた。確かに西土佐の「口屋内沈下橋」と似ており、形がとてもきれいだつた。など、参加者からそれぞれ感想がありました。

これらの「四十の水辺」は、流域の観光名所や川とともにある風景も選定されており、文化庁の選定する「重要文化的景観」とも重なっています。参加者は、いつも見ることのできない風景の

数々を是非ともカメラに納めようと、ベストポジションを見つけてはしきりにシャッターを切っていました。



宮本武之輔を 顕彰する会への活動

宮本武之輔を偲び顕彰する会では、平成二十四年度に生誕地である松山市興居島の宮本武之輔顕彰碑横に銅像を設置しており、その記念式典に野志松山市長に出席していただきました。

また、平成二十五年度に開催したシンポジウムにおいて、新潟県燕市で宮本武之輔を顕彰している、信濃川大河津資料館友の会の早川理事長等に講演していただきました。これらの活動を踏まえ、愛媛県松山市と新潟県燕市の宮本武之輔をゆかりとした交流を進めて行くこととし、平成二十六年八月十八日（月）に、新潟県燕市の「信濃川大河津資料館」において、当会の鈴木会長、信濃川大河津資料館友の会の早川理事長、松山市役所の遠藤副市長、燕市役所の鈴木市長、信濃川河川事務所の福渡所長の出席による交流記念式典を開催し、宮本武之輔を介した両市の交流促進を確認しました。

当日は、当会の活動内容を紹介する展示ブースを開設するとともに、愛媛県松山市からの少年野球チームを含む子供達約六十名の参加もあり、信濃川大河津資料館のリニューアルされた宮本武之輔主催で開催されました。当日は少し曇りでしたが、午後七時からの催しに、近隣の小学生



第一回螢まつり 浮穴ホタルの会

関する展示物を見学し、信濃川大河津分水路における可動堰設置に関する功績を学習することができました。

から老人まで、およそ五百人以上の人たちの参加がありました。もともと、ホタルが飛ぶことで夕方の散歩コースとして定着していました。こと、地元の浮穴小学校で五年生がホタルの飼育に取り組んでいることもあり、たくさんの参加がありました。

浮穴ホタルの会の藤原宗人会長がパネル展示を交えてホタルの生態などについて説明をしたところ、質問も飛びだし、関心の深さを感じました。

予想以上の参加者であつたため、説明を聞き取りにくい人もあり、音響設備の設置など改善点も見つかりました。

この松原泉は、もともと戦前にあつたものが、治水工事のために埋め立てられた過去の泉だつたものを元の姿を取り戻そうとして再生された人工の泉です。この泉から流れ出す人工の小川に人工ふ化したホタルが棲息しています。こ数年は人工ふ化させたホタルを放流する必要がないほどになりました。

参加された皆さんが熱心だったのは、昔飛んでいたホタルの原体験や思い出が呼び覚まされたからだと思います。松原泉が再生された人工の泉であるように、環境との共生ができる自然を人の努力で取り戻す必要があるのかもしれません。



さめうら湖で環になろう

平成二十六年八月二十八日(木)、高知県土佐町・大川村(早明浦ダム流域)にて、特定非営利活動法人さめうらプロジェクトの主催により、「さめうら湖で環になろう」が開催され、湖畔沿いのサイクリングやダム湖でのウォータースポーツ体験・地域食材の試食会・ダムの勉強会などを行いました。

参加対象者は、スポーツを通じた地域おこしに関心のある男女を募集中、主に県内の大学生・高校生ら二十四名が集まり、ダム湖に親しみ交流を深めました。

高知工科大学サイクリング同好会からの参加者等は、「広大な湖を登ると吉野川源流域の渓谷などがあり、水や森の豊かさを感じながら気持ちよくサイクリングができるコースだ。場所によつては適度なアップダウンもありトレーニングにもなる。」などと絶賛。中・高校生等からは、「近くにあるダムなのに、知らないことがたくさんあつた。」「大学生に進路相談などもできて勉強になつた。」といつた意見もあり、学生同士の連携・社会勉強にもなつたようです。地元高校の特産品研究チームから試食品の提供もあり、ダム湖で釣れた魚を使ったメニュー開発にも貢献でき、大変有意義な行事になりました。



第三十二回 ファミリーハゼ釣り大会

平成二十六年十月十二日(日)、吉野川の自然を親しもう、環境を守ろうと、県内外からの家族連れを始め、小・中・高の学生グループ、一般の釣り人二百十六人が参集しました。受付を済ませると、ワイワイガヤガヤ「あつちに行こう、むこうが釣れそうだ」と、吉野川河口から名田橋までの区間でハゼやセイゴ、キビレを狙つて思ひの釣り場に向かいました。当日は、大型台風十九号の接近で開催を危ぶまれましたが、予定変更もなく無事に開催されました。先週末の台風十八号の影響で川に



濁りはあつたものの、場所によつては食いも活発で、面白いようにはハゼが釣れ、クーラーを一杯にした家族連れもありました。あちこちで歓声をあげる女性や少年、魚の針外しや新しい仕掛け作りに専念する父親、釣りそつちのけで雑談にふける母親、おやつを食べるのに忙しい子どもたちと、ファミリーハゼ釣り大会ならでは微笑ましい光景が見られました。大会はハゼ十匹の総重量で競われ、ファミリーの部、一般の部、女性・少年の部の上位に賞状・賞品が、全員には参加賞、河川敷の清掃に協力してくれた人にはクリーン賞が、徳島市水と緑の推進協議会からは、家庭で美しい花を咲かせくださいと願いをこめた花の種が参加者全員に手渡され、嬉々として家路に向かう人たちに吉野川が「また来てね」と笑顔で見送つていました。



●四国堰堤ダム

八十八箇所巡り

第十六号認定(平成二十六年五月)
愛媛県松山市 関藤さんの感想

青葉かおる季節、ダム巡りには

絶好の季節になりました。

「四国の川を考える会」の皆さんには、ますますご健勝のことと存じます。

私は、昨年十一年九月から「四

国堰堤ダム八十八箇所巡り」を始め、この四月二十七日に百八堰堤ダムを無事に巡り終えることができました。

納経帳とハンコを見つけること

ができなかつた「多治川ダム」の

写真を同封しますので、なにとぞよろしくお願ひいたします。なお、

六十四、六十五、六十六番の判子

が貼つてあるのは、六十四番に六

十五番、六十五番に六十六番を押

し間違えたので、切り抜いて貼つたためです。

私は一昨年まで四国霊場八十八

カ所の巡拝を三十五回続けていま

したが、体力の低下などが気にな

りジムに通うようになりました。

そのジムで友達になつたYさんか

ら、「四国堰堤ダム八十八箇所巡り」があるのを教えられました。

そこで昨年十一月に、小回りがきき高速道路も走れるマジエスティS II 155CCがダム巡りに

は最適ではないかと考え、これを

購入し、十一月二十九日からダム

巡りを開始しました。

おりしも、YSPが毎年三月一

日から「チャレンジ3,000kmツーリング」をおこなっていることを知り、これにも申し込みました。そして三月一日からダム巡りと、今年開創千二百年の大きな節目を迎えた四国八十八カ所靈場巡りをやれば一举両得と考え土日を中心頑張り、両方ともやり抜くことができました。

第十七号認定(平成二十六年五月)
兵庫県加古川市「どらどら」さんの感想

四国の川を考える会 事務局様

四十四番の山財ダムのハンコが見えにくいです。うすくて……すいません。

認定してください！お願いします。まわりおわりますと、よく行つたなあと思います。

四国は大好きな所ですので私はダムまわってみてよかったです。

難所ありました！

大森川ダム↓ダート道長い道のり高西ダム↓歩くなんて！帰りに動物にいました。

番外、赤根川第四堰堤 ひたすら山へ細い道 つきあたりにあります。

また、時間をつくつて四国のダムめぐります。ダムの大切さとかちよつとわかりました。今、全国のダムまわっています。

これまでいくには、並々ならぬ苦労と手間がかかつたことでしょう（お金も）。

これを機会に、一人でも多くの

方に挑戦していただけるよう、自分にできることをやってまいります。

「四国の川を考える会」事務局様初夏を迎え、梅雨もたけなわこの頃ですが、「四国の川を考える会」の皆さんには、ますますご健勝の

人工構造物の中でもダムは百年単位の稼働を目指された構築物。歳月とともに自然の中に溶け込む四国堰堤をあらためて眺めてほしいと願っています。

公式サイトからエントリーすれば納経帳のダウンロードが出来ます。ハンコの場所は各ダムのページ本文中に記載しています。

この過酷な巡礼を見事完走の方は、「ダム神」様と認定し、四国

川を考える会が認定証をお渡ししています。

ここで、お送りくださった感想文の一部をご紹介します。

第二十一号認定(平成二十六年七月)
福井県小浜市「うなぎくん」の感想

事と存じます。

私はダムカードコレクターで七年程前からダムを巡つて全国を夫婦で周っています。沖縄と北海道は1回だけの訪問ですが、その他の地方はそれぞれ四～五回訪問して、カード収集枚数は、現在、五百四十九枚(各ダムともバージョンアップした物も全て含み、又、電力系ダム等の非公式カードも含めて)となつております。

又、訪問ダム数は約890ダムで、写真を撮ることも同時に行つており、その撮影枚数は、一万五千枚に及びます。

そんな私なのですが、「四国堰堤ダム八十八箇所巡り」については、

その存在は開始当初から知りではいましたが、実際には、参加する気もないまま過ごしておりましたところが、五月の連休に高知の「穴

内川ダム」と「休場ダム」を訪問して写真を撮影していく際に、大型バイクに乗った私と同世代の男性が、「四国堰堤ダム八十八箇所巡り」をしているのを見て話をしたら大変面白いと言つておられたので、それでは、私もやつてみようかなと思い立ち、六月二十五日から始めました。

始めるに当たっては、ホームページの各ダムの詳細を全て印刷し、精密な訪問計画を立てたから出発しました。

第二十三号認定(平成二十六年七月)
香川県さぬき市「讃岐の弘法」さん
の感想

「四国の川を考える会」事務局
様へ
いつもお世話になっています。

第二十五号認定(平成二十六年十月)
高知県佐川町 上戸さんの感想

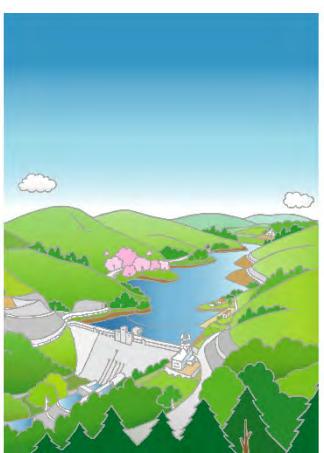
高知県佐川町の上戸です。

認定書届きました。ありがとうございました。

昨年の五月、新聞でダム巡りを

時年の五月 記念で夕べ遅りを
知りました。四国電力に勤めてお
られ、内閣官房にて、二年二

り、水力発電所にかかる仕事をしていきますので、興味を持ちダムめぐりを始めました。大森川ダム



平成二十六年度定期総会報告

【四国の川を考える会事務局】

うらプロジェクト」
特定非営利法人さめうらプロジェクト
副理事長 石川 水愛氏

平成二十六年度の定期総会を八月十九日、高松市において、会員百五十八名のうち五十九名が出席、六十七名の委任状をもって開催しました。

四国の川を考える会

平成二十六年度定期総会次第

- 一、開会
- 二、会長挨拶
- 三、来賓挨拶
- 四、議事

②役員会

- 開催日／平成二十六年三月二一十八日(金)
場所／サンボートホール高松 会議室
議題／役員会・総会開催について
その他

- 運営幹事会(第二回)
開催日／平成二十六年六月十七日(月)
場所／建設クリエイトビル 会議室
議題／平成二十六年度助成事業について
その他

1 平成二十五年度事業報告

(1) 会議

- ①運営幹事会(第一回)
開催日／平成二十五年五月三十一日(金)
場所／サンボートホール高松 会議室
議題／役員会・総会開催について
その他

(2) 広報誌・機関誌の発行

- ①広報誌『あめんぼ』WEB版0506
発行／平成二十五年十月
すこやか川散歩 綾川

※会員の皆様には、メールと郵送で、発行・ホームページへの掲載について通知しています。

※ホームページアドレス
URL:<http://www.shikoku-river.net/>

(3) 平成二十五年度広報事業と助成事業

詳細については、次ページに掲載

(4) その他

- 1 平成二十五年度事業報告
2 平成二十五年度決算報告及び監査報告
3 平成二十六年度事業計画(案)及び予算(案)
4 会則の改正
5 役員の改選等
6 その他

- ③総会
開催日／平成二十五年七月十八日(木)
場所／高松市 マリンパレスさぬき
議題／平成二十四年度事業報告
平成二十四年度決算報告及び監査報告

一、講演

「川を通じて学んだあれこれ」

阿南工業高等専門学校

創造技術工学科建設コース

教授 湯城 豊勝氏

講話 演題 「LOVE 早明浦(さめ

役員の改選

その後、平成二十五年度には十四名、平成二十六年度に入つて九名出ており、現時点で二十四名の方を認定しております。

平成二十五年度広報事業と助成事業

区分	イベント名	河川名	場 所	主 催 者	実 施 状 況
広報事業	第31回 ファミリーハゼ釣り大会	吉野川	名田橋～吉野川河口一帯	共催：徳島県釣連盟、四国の川を考える会	平成25年10月13日(日) 340名参加
助成事業	那賀川源流碑開き	那賀川	那賀川源流碑及び源流モニュメント周辺	那賀川 アフターフォーラム	平成25年4月14日(日) 約200名参加
	土器川生物公園魚類調査及び清掃	土器川	土器川生物公園	土器川生物研究会	平成25年12月21日(土) 平成26年3月15日(土) 74名参加/2回
	重信川クリーン大作戦	重信川	重信川流域	重信川の自然をはぐくむ会 重信川エコリーダー	平成25年6月1日(土) 840名参加 平成25年10月19日(土) 560名参加
	四万十川水辺88箇所巡り	四万十川	四万十川流域	四万十川自然再生協議会	平成25年12月14日(土) 14名参加
	宮本武之輔を顕彰する会への活動	—	愛媛県松山市内	宮本武之輔を顕彰する会	平成25年11月3日(日) 講演会 平成25年11月24日(日) ミニシンポジウム 平成26年1月5日(日) 顕彰碑・銅像清掃活動他

2 平成二十五年度監査報告

(1) 3 平成二十六年度事業計画(案)

監査報告
決算期間
自 平成二十五年四月一日
至 平成二十六年三月三十一日

- ① 機関紙『水紋』をホームページにて公開。
- ② ホームページを活用し、広報誌『あめんば』の情報発信を行う。
- ③ 広報事業として「吉野川ファミリーハゼ釣り大会」を行う。
- ④ 助成事業として数件の助成を行う。
- ⑤ シンポジウム等への参加
- ⑥ 四国堰堤八十八箇所巡り完走認定。

平成25年度監査報告

「四国の川を考える会」会則第11条4項の規定により、監査を執行したので報告する。

記

監査執行日 平成26年5月13日

監査内容 平成25年度本会経理状況

意見 本会会計に係わる収入及び支出の状況並びに各帳簿書類は正確であり、金銭残高については、貯金通帳と合致していることを認める。

監事 香川県河川協会 西山 淳一

電源開発㈱西日本支店 池口 幸宏

平成二十六年度広報事業と助成事業(案)

区分	イ ベ ント 名	河 川 名・場 所	主 催	開 催 日
広報事業	第32回 ファミリーハゼ釣り大会	吉野川 名田橋～吉野川河口一帯	徳島県釣連盟 四国の川を考える会	平成26年10月12日(日)
助成事業	那賀川源流碑開き	那賀川 源流碑及び源流モニュメント周辺	那賀川 アフターフォーラム	平成25年4月13日(日)
	土器川生物公園生物調査及び清掃	土器川 土器川生物公園周辺	土器川生物研究会	2回/年 9月～11月・3月
	第一回浮穴ホタルまつり	重信川 重信川松原泉	重信川の自然をはぐくむ会 重信川エコリーダー	平成25年6月15日(日)
	四万十川水辺八十八ヵ所巡り	四万十川 四万十川流域	四万十川自然再生協議会	平成26年6～11月の期間内の3日間(3回)
	宮本武之輔を顕彰する会の活動	愛媛県松山市内	宮本武之輔を顕彰する会	定期会2ヶ月に1回・講演会2回・交流会1回・資料展示会1回
	さめうら湖で環になろう	吉野川 さめうら湖	特定非営利活動法人さめうらプロジェクト	平成26年8月17日(日)

4 規約の改正

四国の川を考える会「会則」 第三章について
左記のように改正します。

第3章 会 員

(会 員)

第4条 会員は四国内に在住する、一般会員及び特別会員によって組織する。



会員は本会の主旨に賛同する、一般会員及び特別会員によって組織する。

(会員資格の喪失)

第6条 会員はつぎの事由によって、その資格を喪失する。

- ① 退会
- ② 禁治産者、若しくは準禁治産者宣言または破産宣告を受けた者
- ③ 死亡若しくは団体の解散
- ④ 法人若しくは団体の解散
- ⑤ 除名
- ⑥ 四国内に在住しなくなったとき (削除する)

● 5 役員の改選

監 事		理 事							顧 問		副 会 長		会 長	役 職	
池 口 幸 宏	西 山 淳 一	大 澤 敏 之	大 原 隆 司	上 田 信 幸	工 藤 建 夫	大 谷 博 信	公 文 治 夫	菊 池 弘 美	井 下 俊 作	福 田 昌 史	三 井 宏	武 藤 裕 则	三 谷 健	鈴 木 幸 一	役 員 名
支店長代理 電源開発㈱西日本支店	香川県河川協会 事務局 (一財)河川情報センター所長 高松センター所長	四国電力㈱電力輸送本部 総括グループリーダー 幹事長	四国治水期成同盟連合会	(一社)四国クリエイト協会 専務理事	復建調査設計㈱ 技師長	代表	N P O 法人それいけ夢工房	四国大学短期大学部教授 理事長 (一社)四国クリエイト協会	徳島大学名誉教授	徳島大学教授	いであ株四国支店高松営業所 学校長	徳島大学教授	徳島大学教授	新	改選

● 運営幹事

嘉 田 功	濱 田 耕 一	参 川 好 記	氣 多 拓 夫	森 直 紀	● 参 与 名	嘉 田 功	氣 多 拓 夫	五 藤 隆 彦	公 文 治 夫	池 口 幸 宏	大 原 隆 司	運 営 幹 事 名
四国地方整備局河川部 河川情報管理官	高知県土木部 河川課長	愛媛県土木部 河川課長	香川県土木部 河川砂防課長	徳島県土木部 整備部 河川振興課長	四国地方整備局河川部 河川情報管理官	香川県土木部 河川砂防課長	徳島建設コンサルタント 四国支店	電源開発㈱西日本支店 支店長代理	四国電力㈱電力輸送本部 水力部 総括グループリーダー			

● 参与

嘉 田 功	濱 田 耕 一	参 川 好 記	氣 多 拓 夫	森 直 紀	● 参 与 名
四国地方整備局河川部 河川情報管理官	高知県土木部 河川課長	愛媛県土木部 河川課長	香川県土木部 河川砂防課長	徳島県土木部 整備部 河川振興課長	

■ 講演
那賀川を活動の拠点の一つとされている湯城豊勝先生(専攻..河川工学)から「川を通じて学んだあれこれ」と題したご講演をいただきました。

【新役員から一言】
「副会長就任の挨拶」

徳島大学教授 武藤 裕則



四国地方で大規模な水害が発生したこの年に本会の副会長を拝命いたし、あらためて身の引き締まる思いです。足元の高知・徳島をはじめ各地で相次いだ水害では、地域の災害危険性を認識していくことの重要性が再び強調されたとの感を抱いております。最近は使われることが少なくなったようですが、素因・誘因で言うところの素因の問題です（近年は脆弱性＝バルネラビリティと言われることが多いようです）。水工技術はこれまで多くの面で、素因の除去ないしは軽減に努め、事実多大なる効果をあげてきましたが、そのことが逆に地域の脆弱性に目を瞑らせ、安全幻想を抱かせる面もあったことが指摘されています。一方、誘因（災害外力＝ハザード）についても、これまでの統計値からやや外れるような事象が増えています。道未だ遠しの感は否めませんが、自分の身を自分で守るために、「その時そこで何が起こるか」を知らせておくことの重要性は言を待ちません。問題は、そこにどれだけの実感を伴えるかにあり、災害に関する知識の普及により一層の工夫が求められているように思われます。水害の克服に向けて微力を傾けて参る所存です。皆さまには引き続きご指導ご鞭撻いただきたく、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

「恵み豊かなゆずの里 北川村」

高知県北川村長 大寺 正芳 氏

高知県の東部に位置する北川村は、村のほぼ中央部を南下する奈半利川を挟んで、東西約十七km、南北約二十三kmに広がる、面積百九十六・九一km²の山村です。年間を通じ温暖多雨で、平均気温は十六・三℃、降雨量三千～四千mmと農産物の生産に適した気象条件により、多彩な作物の栽培が行われています。

中でもゆずは村を代表する農作物であり、今でも県のシェアの1/4を占めています。このゆずは、本村出身で坂本龍馬と共に活躍した幕末志士、中岡慎太郎が庄屋時代に生産を奨励したもので、収穫の最盛期となる十一月には村中さわやかな香りに包まれます。

また、村の総面積の約九十五%を占める森林は、木材生産や村土の保全など大切な役割を果たしています。かつては奈半利川沿いに森林鉄道網が整備され隆盛を極めた林業も、木材価格が低迷する中、苦戦を強いられておりますが、いかにして林業の振興を図っていくかは、本村にとって重要なテーマの一つです。

2ウェイ通信

一方、村内には印象派の画家クロード・モネの自宅の庭を再現した「モネの庭マルモッタン」や、中岡慎太郎を顕彰した「中岡慎太郎館」、利用者の方々からの泉質を高く評価していただいている「北川村温泉ゆずの宿」、江戸時代に参勤交代の道として使われた「野根山街道」など、さまざまな観光資源があります。私たちは、雄大な自然と先人より受け継がれてきた伝統や文化を守り、交流人口の拡大に努めながら、暮らしやすい支え合いの村づくりを進めています。

さて、平成二十三年七月に来襲した台風6号は北川村の中北部に大きな災害をもたらしました。なかでも平鍋、小島、和田の3地区では大規模な土石流が発生し、道路が寸断され、3カ月間も幹線道路が通行止めとなりました。現在では平鍋地区の大谷川については国による直轄砂防事業が実施されており、小島地区の池谷川、和田地区の寺谷川においては県による砂防事業が実施され、本年3月に堰堤が完成しております。

堰堤が完成した小島、和田の地区においては道路の通行の安全度が高まり、住民の安心につながっております。村としても、国や県のご支援をいただきながら、今後も安全安心な村づくりに努めて行きたいと考えています。

水には音がない？

「春の小川はさらさら行くよ」。

唱歌「春の小川」では、水の流れを「さらさら」と表現しています。けれど、小川は「さらさら」と流れているのでしょうか。少なくとも、小川に耳を傾けても「さらさら」と音は聞こえません。

清水が「ちよろちよろ」流れ出すという表現もありますが、清水がわき出たり、流れ出たりするときに「ちよろちよろ」と音を出すわけではありません。けれども、その水の風景にぴったりの表現であり、多くの人が「さらさら」という言葉に小川を思い浮かべ、「ちよろちよろ」流れ出すという言葉で、清水がわき出る風景を思い浮かべます。また、滝を訪ねて行くと、聞こえてくる「ゴーッ」という音に、もうすぐそこに滝があると心がときめきますが、この音を都会の真ん中で聞けば、ただの雑音にしか過ぎません。その風景を知っているからこそ、癒やしの音や感動の音に聞こえる水の音。やはり、その場所に立つことが大切なんですね。次休みには、水の風景を訪ねてみませんか。

四国の川を考える会の広報誌

「あめんぼ(穴吹川)」を掲載

当会のホームページ上に、広報誌『あめんぼ』WEB版七号を掲載しています。

今回のピックアップ河川は、徳島県の一級河川・穴吹川です。
是非、ご覧ください。

<http://www.shikoku-river.net/amenbo/index.html>



◇編集後記

川のせせらぎに耳を傾けると、心が不思議と和んでくるような気がしませんか。

これは、せせらぎの音に「1/fゆらぎ」という、人にとって心地よい音のパターングがあるからだそうです。

ある一定の規則正しいリズムの中に不規則なパターング加わるという「1/fゆらぎ」は、心音や心拍にもあるとか。お母さんのおなかの中で水に浮かんで聞いたその音を思い出させるのでしょうか。

◇一般会員の募集について

当会では、会員の推薦により、随時会員を募集しています。勧誘・推薦をお願いします。

入会の申し込み用紙は事務局にありますので、電話等でご請求ください。平成二十五年七月十八日現在の会員は、八十二名です。

◇お問い合わせ先

四国の川を考える会事務局

〒七六〇・〇〇六六

高松市福岡町三丁目十一番二十二号
TEL 087-822-4315
FAX 087-822-4316

